

イベント情報 (10月~12月)

電話 (04-2934-4396) で博物館までご連絡ください。
また、公式ホームページからもお申し込みできます。



◆里山体験教室
「伐採とミニほだ木作り」
昔から行われてきた、里山の雑木林管理作業を体験する教室です。ノコギリを使って伐採作業を体験します。伐った木を使ってミニほだ木を作ります。
日時：1月27日(土) 10:00~12:30
対象：小学生以上(小学生は保護者と参加)
定員：20名
参加費：300円
要申込：12月27日から受付開始します。

◆大人の自然観察会
さまざまな動植物が見られるみどり森で大人向けの自然観察会を行います。自然界の営みを再発見。初心者向けです。
日時：2月24日(土) 9:30~12:00
対象：中学生以上
定員：20名
参加費：100円
要申込：1月24日から受付開始します。

◆里山ようちえん「カエル組」
こどもの成長段階や好奇心に合わせてながら、親子で里山の自然の中で遊びます。お弁当持参。お茶とお菓子付き。
※参加対象年齢がありますのでご注意ください。
日時：3月4日(日) 10:00~13:30
対象：H29年4/1時点で満2・3歳児と保護者
定員：20名
参加費：親子2名で1000円1名追加ごと500円
要申込：2月4日から受付開始します。

◆里山ようちえん「オタマ組」
こどもの成長段階や好奇心に合わせてながら、親子で里山の自然の中で遊びます。お弁当持参。お茶とお菓子付き。
※参加対象年齢がありますのでご注意ください。
日時：3月7日(水) 10:00~13:30
対象：H29年4/1時点で満2・3歳児と保護者
定員：20名
参加費：親子2名で1000円1名追加ごと500円
要申込：2月7日から受付開始します。

◆里山文化講座
「郷土料理さつま団子作り」
里山の文化や習俗を学ぶ講座。かつてこの地域の畑の作物の代表だったサツマイモ。その芋をつかった保存食「さつま団子」作りを行います。
日時：3月11日(日) 10:00~12:00
対象：小学生以上(小学生は保護者と参加)
定員：20名
参加費：300円(保険代・材料費)
要申込：2月11日から受付開始します。

◆親子はじめての自然観察会
親子向けの自然観察会です。みどり森で、生きものたちを観察します。
日時：3月25日(日) 9:30~12:00
対象：小学生と保護者
定員：20名
参加費：100円
要申込：2月25日から受付開始します。

◆みどり森ガイドウォーク

当日募集型のガイドウォークです。案内所から大谷戸湿地周辺のみどころを1時間程度でご案内します。
どんなテーマになるか当日のお楽しみに!

日時：1/7(日) 11:00~
2/3(土) 13:00~
3/3(土) 13:00~
3/21(水・祝) 11:00~
対象：どなたでも
定員：15名
参加費：無料
要申込：当日10時から案内所にて受付

博物館からのお知らせ

~散策時の注意事項~

これからの時期、霜が降りようになると、日中は霜がとけて、園路がぬかるむようになります。散策をする際は、足元に十分気を付けて、お楽しみください。

博物館の利用案内

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。

◆アクセス◆

- 公共交通機関をご利用の場合■
小手指駅南口より西武バス「宮寺西」または「金子駅入口」行き乗車、約25分「荻原バス停」下車、徒歩約10分
- 案内所までの地図■
右のQRコードを読み込むと緑の森博物館のHPのアクセスページが開きます。(一部、携帯電話では確認できない機種があります)
- ご来館時のお願い■
駐車スペースに限りがありますので電車・バスをご利用ください。



発行年月 2018年1月
発行 さいたま緑の森博物館
住所 〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX 04-2934-4396
開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
公式HP http://saitama-midorinomori.jp/
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

さいたま緑の森博物館 ニュースレター

はくぶつかんだより 28

寒いけど楽しい?

新年を迎え、みどり森は最も寒い季節となりました。出勤したスタッフを迎えるのは、キーンと冷え切った空気です。案内所は入間市にありますが、きっと市内でも1、2番目に寒い場所ではないかと全スタッフが思っているはず。

水鳥の池は、去年は11月末から氷が張りましたが、氷が張っていることを知らないカルガモがバシャンと着水し、その後、バツの悪そうな感じで氷にはさまったまま、長い間じっとしていました。新年を迎える頃には、氷も厚くなり、午後になってもとけない日もあります。そんな氷の上をセキレイの仲間がトコトコと歩く、かわいらしい姿にも運が良ければ出会えるかもしれません。

冬真っ盛りのみどり森の自然は、この季節ならではの姿を見せてくれます。冬の厳しさを知っているからこそ、寒さを乗り越える生きものたちの尊さや春の訪れの嬉しさが実感できるはず。寒さに負けず、冬のみどり森を楽しんでくださいね!



池の氷にはまってしまったカルガモさん

今号のニュースレターは...

今年「戌年」です。それにちなんで、みどり森で見られる名前に「イヌ」のつく植物をご紹介します。1年を通して、みどり森のイヌを探してみてくださいね。

みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地・文化などについて、毎号キーワードを挙げて紹介しています。今回は「お正月飾り」です。

その35 お正月飾り

お正月飾りは、稲ワラや山に生えている植物等を使い「年神様」をお迎えする為に飾られます。使われる植物も縁起を担いだものが使われます。

【シメ飾り】
お飾り・シメ縄ともいわれ、稲を作っていたころは、ワラが豊富にあったので自分の家で作っていました。また、一夜飾りはよくないとされ、三十一日は避けて三十日に作って飾っていたようです。

【門松】
年男が三十日に山から松と竹を伐ってきて、家の門口や庭に立てていました。現在は松が手に入りにくい為

あまり立てないようになりりましたが、以前は門松にシメを飾り、またナラの枝を三本束ね、アボヒボ(粟穂稗穂)と称するものを供える家もありました。

【アボヒボ】
家の主人が山からナラ、ハンノキ、ネブタを伐ってき、それぞれ皮をむいて二十センチぐらいに切り三本をワラで束ねる。これをアボヒボ(粟穂稗穂)といい、神棚・仏壇・堆肥小屋などに備えていました。

みどり森では...
毎年、十二月に『里山文化講座』お正月準備しめ縄飾りをつくらう!を実施しています。しめ縄飾りの作り方や古くから受け継がれているお正月の文化について学ぶことができます。イベントです。

【参考文献】入間市史民俗文化財編月刊たぐさのふしぎ(二月号)

今年も成年（いぬどし）

みどり森の「イヌ」たち

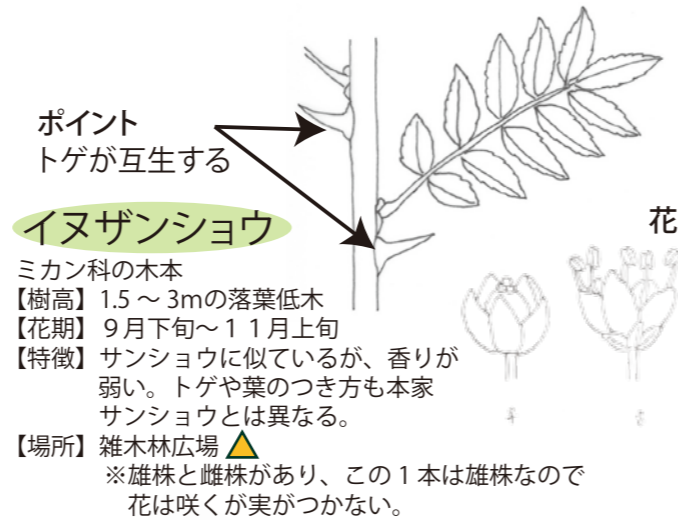
実は、みどり森にもたくさんの「イヌ」たちがいます。といっても、動物のイヌではなく、植物の名前に「イヌ」がついているものが、探すと色々あります。今号では、年間を通して見られる、みどり森の「イヌ」たちをご紹介します。

みどり森で見られる
名前にイヌが付いている植物たち



オオイヌノフグリ

オオバコ科の草本
【草丈】 茎は基部で分岐して四方に広がり 40cm ほどになる
【花期】 3月下旬～5月下旬
【特徴】 小さな青い花は、まだ寒いうちから陽だまりに咲き、春の訪れを感じさせてくれる。花の後の実の形がイヌの糞丸に似ているからついた名。
【場所】 大谷戸湿地、駐車場、西久保、畑など



イヌザンショウ

ミカン科の木本
【樹高】 1.5～3mの落葉低木
【花期】 9月下旬～11月上旬
【特徴】 サンショウに似ているが、香りが弱い。トゲや葉のつき方も本家サンショウとは異なる。
【場所】 雑木林広場 ▲
※雄株と雌株があり、この1本は雄株なので花は咲くが実がつかない。



イヌシデ

カバノキ科の木本
【樹高】 15mほどになる落葉高木
【花期】 4月中旬
【特徴】 イヌシデとアカシデはよく似ている。樹皮や葉の形、タネの翼の形などが見分けのポイント。雑木林広場の近くに比較的幹が太いイヌシデが生えているので、見てみよう。
【場所】 雑木林広場や案内所周辺 ●

みどり森のイヌ【番外編②】エノコログサ?!イヌコログサ?!

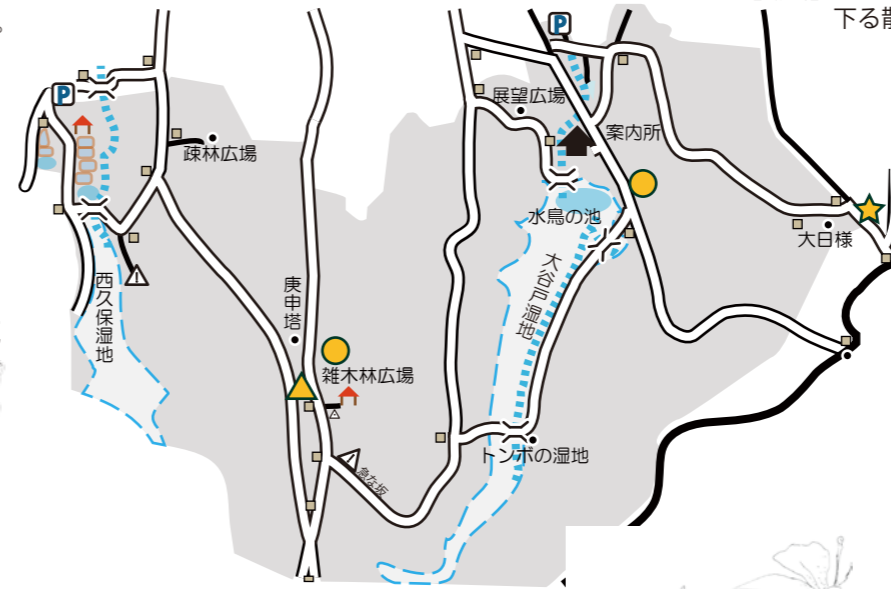
エノコログサは、ネコジャラシと呼んで、みなさんも遊んだことがある植物だと思います。世界の温帯から暖帯にかけて広く分布する一年草で、みどり森周辺でも良く見かけます。

実は、このエノコログサの名前の由来は『いぬころ草』の意味であり、穂の形が子犬のしっぽに似ているからだそうです。英語ではエノコログサの仲間の植物を Foxtail grass (キツネのしっぽ草) と呼ぶそうです。国は違えども、エノコログサからイメージする生きものは似ているようですね。



さがしてみよう! みどり森『イヌ』マップ

みどり森で割と目にする事が出来る、「イヌ」を紹介詳しい場所や花を見たい人は案内所のスタッフまでお問い合わせください。



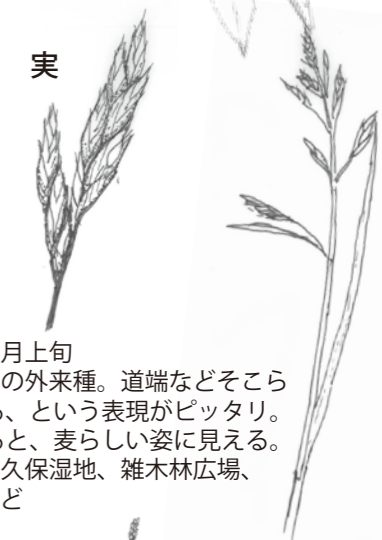
イヌザクラ

バラ科の木本
【樹高】 10～15mの落葉高木
【花期】 5月下旬
【特徴】 よく似たウミズザクラよりも少数派。ブラシ状の花も、ウミズザクラより小ぶり。樹皮が白っぽいことも特徴の一つ。
【場所】 おまん坂、比良の丘から八幡湿地へ下る散策路の脇 ★



イヌムギ

イネ科の草本
【草丈】 40～120cm
【花期】 9月下旬～11月上旬
【特徴】 南アメリカ原産の外来種。道端などそこらへんに生えてる、という表現がピッタリ。扁平な穂が出る、と、麦らしい姿に見える。
【場所】 大谷戸湿地、西久保湿地、雑木林広場、展望広場、畑など



アメリカイヌホオズキ

ナス科の草本
【草丈】 30～60cm
【花期】 9月下旬～11月上旬
【特徴】 アメリカ原産の外来種。雑木林広場、駐車場、畑まわりなど明るい場所に生え、星型の花は白～薄紫色。実は黒く熟す。
【場所】 大谷戸湿地、駐車場脇、八幡湿地、西久保湿地、畑など



イヌタデ

タデ科の草本
【草丈】 30～60cm
【花期】 7月上旬～9月
【特徴】 和名は葉に辛みが無く食用にならないことから。別名はアカマンマといい昔はままとの時に使ったそうです。
【場所】 水鳥の池、大谷戸湿地、西久保、畑など



どうして名前にイヌがつくの?

イヌのつく植物は、その名が植物の形からついたものは少なく、
(1) 同じ仲間だがあまり役に立たないから
(2) 卑(いや)しんでそう呼んだ
(3) 形状は似ているけれど、仲間ではない
などという理由が多いようです。
また、別名についている名は、昔からある地方独特の呼び方がたくさんあります。

みどり森のイヌ【番外編①】イヌ科の動物たち

みどり森のある狭山丘陵には、いろいろな哺乳類が生息しています。そんな哺乳類でイヌ科の動物は、ホンダタヌキとホンダギツネがいます。

タヌキは比較的、出会う機会があるのですが、キツネは年に数回、目撃情報が入る程度で非常に珍しい存在です。キツネは一時期、狭山丘陵から絶滅したといわれていましたが、ここ数年、目撃情報が多くなってきました。

今年は、レアなキツネに出会えることを目指して、みどり森に足を運んでみてはいかがでしょうか？
ちなみに朝の早い時間の方が出会う確率が高いですよ！



～おねがい～

さいたま緑の森博物館は野外の動植物が展示の野外博物館です。次に来た時も観察ができるように動植物の採取等をご遠慮下さい。また、愛犬を散歩の際には、必ずリードにつなぎ、糞の始末をきちんとお願いいたします！

【参考文献】 「どんぐり見聞録」いわさゆうこ(山と溪谷社) 「どんぐりの戦略ー森の生き物たちをあやつる樹木」森廣信子(八坂書房) FIELD GUIDE22「葉で見わかる樹木」林将之(小学館) 「樹皮ハンディ図鑑」梅本 浩史(永岡書店) 岡山理科大学生物地球学部生物地球学科植物生態研究室(波田研) HP